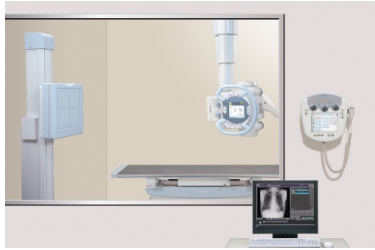


京都医療科学大学 実験機器一覧

一般 X 線撮影装置



揺らぎの少ない安定した X 線を発生させるために、最新のインバータ制御方式を採用した装置です。

さらに指、頭、胸などの厚みや内部構造の異なる撮影部位に応じ、見やすく被ばくの少ない画像となるための条件を設定しやすい操作パネルを装備しています。撮影台も動かしやすく、優れた基本性能と操作性を有しています。

デジタル X 線透視撮影システム (直接変換方式 FPD 搭載)



島津製作所が開発した直接変換方式 FPD（フラットパネルディテクタ）により、X 線画像は高画質なデジタル画像として情報機器の中に高速に入手でき、体内の情報をより詳細に観察することができます。

これにより、リアルタイムの診断や検査時間の短縮、放射線被ばくの低減など患者さんの負担が少なくなりました。

連続撮影や断層撮影などが可能な最先端技術を駆使したデジタル X 線画像撮影機器です。

ヘリカル CT 装置 (コンピュータ断層撮影装置)



ヘリカル CT とは、寝台を移動させながら、X 線管球などを連続回転し、らせん状に X 線撮影することで、体の内部を画像化する診断装置です。

高精細な三次元画像が作成でき、複雑な血管構造や臓器を立体的に表示できます。また、1 回のスキャンで多くの断面が撮像できるため、検査時間も短く患者さんにも優しい装置です。

MRI 装置 (核磁気共鳴画像診断装置)



MRI は、磁石から発生する「強い磁場」とラジオのような「電波」を使って人間の体から得られる信号を、コンピュータを用いて画像化する診断装置です。

放射線の被ばくがなく、任意の方向の断面が得られます。MRI 検査には、形態学的な画像、生理学的な情報なども含まれているため、病気の鑑別診断に非常に有用です。

超音波診断装置



超音波診断装置は、周波数の高い音を人体にあて、臓器などからはね返ってきた音を受けて画像にする装置です。

超音波は放射線の被ばくがないため、安心して診断できます。装置の小型化や軽量化が進み、簡単に診断できるので現在の医療には欠かせないものとなっています。この超音波診断装置によって、心臓の動き、肝臓(かんぞう)、腎臓(じんぞう)、胆のう、頸動脈(けいどうみやく)、子宮、乳房、妊娠中の赤ちゃんの様子などを見ることができます。

